

「2010 年度活動報告」
「決算報告」

2010 年度活動報告

2011 年 5 月 13 日

はじめに

2011 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、歴史的な大災害をもたらしました。日本ハビタット協会はただちに支援活動を行うことを決定し、避難所へ緊急必要物資の輸送・配布を迅速に行いました。この支援活動は他機関によるものも含めたすべての支援活動のうちで、最も早く適切なもののひとつであったと思われます。

この支援活動ができたのは、ハビタットフレンズ仙台の方々、ご自身も被災され避難所に暮らしながらも、被災者全体のニーズを把握し、緊急支援の必要な被災地を選び、関係機関との調整をされるなど、懸命な努力をされたおかげです。そして、ハビタットフレンズ山形の皆様が、短時間に必要物資を調達し、被災地にトラック輸送をして下さったおかげです。皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

今回の災害には世界から関心が寄せられたので、当協会のホームページに英文の活動報告を加え、外国からクレジットカードで寄付金を支払うシステムも新設しました。日本の問題は世界の問題であると考えて、世界の人々が支援して下さることを実感しました。今後の日本ハビタット協会の活動は、「世界はひとつ」との考えをより一層強く持って推進したいと思えます。

2010 年度には、寄付をして下さる方々に税金上の優遇措置が適用になる「認定NPO法人」の資格を取得することができました。また、助成金の申請を活発に行って資金面で当協会が行う事業を拡大することができました。

以下に、2010 年度の活動の概要を報告します。

1. 支援事業

(1) 東日本大震災被災者支援事業

ハビタットフレンズ仙台とハビタットフレンズ山形の多大な、誠意溢れるご協力により、次の通り山形から被災地に支援物資のトラック輸送を行いました。「ハビタット・フレンズシップ便」と呼んでいます。

3 月 13 日、被災後 50 時間で仙台市若林区の避難所に食品、衣類、電池、毛布などを輸送。

3 月 16 日 津波の最大被災地のひとつである岩手県陸前高田市に食品、衣類、電池、毛布などを輸送。雪の中、修復中の山越え道路を一関市福祉協議会の方の案内をいただき 4 時間かけて到着。

3 月 21 日 同じく津波の最大被災地のひとつである石巻市河北町に食品、衣類、電池、毛布などを輸送。

3 月 30 日 瓦礫、ドロなどの除去をする復興段階に入った仙台市宮城野区にネコ車、スコップ、ゴム・ビニール手袋、長靴、デッキブラシなどを輸送。

4月12日 避難所から自宅に戻った人々に必要な物資を、岩手県大船渡市での支援の重要な拠点となっている山浦医院に輸送。

4月16日 宮城県山元町亘地区に、必要物資を宅配便で輸送。

トラック輸送はすべて山形市の第一貨物株式会社のご好意によるトラックが使用されました。第一貨物株式会社 武藤社長様のご好意に心より御礼申し上げます。また、物品調達では、千歳館 沢渡様のご尽力に深く御礼申し上げます。

ハビタットフレンズ山形は、被災地から避難してきた方々に、炊き出し、無料シャンプーサービスもして下さいました。

花王株式会社からも支援物資を提供いただき感謝いたします。

(2) ラオス学校給水衛生設備建設事業

ラオスの小学校で給水設備と衛生設備(トイレ)の両方が整っているのは、全体のわずか24%でしかありません。子ども達の保健衛生上大きな問題であり、学校と周辺コミュニティの環境問題にもつながっています。

日本ハビタット協会は、国連ハビタット・ラオス事務所及びラオス給水公社と協力して、シエン グエン地区(首都ビエンチャンの北約 200 キロのルアン・プラバン県内)で2010年12月から8校の小中学校を対象に支援を開始しました。

5校では衛生設備(トイレ)を建設・改善します。

トイレは、薬品などを使用せず、環境に一切悪影響を与えない汚水浄化槽を備えたものです。

2校ではそれぞれ村から給水パイプを延長して学校に接続します。高所にある1校では24,000リットル容量の雨水貯蔵タンクを建設します。

この事業が2011年5月末に完成すると、2,884人の子ども達の学校生活が大きく改善します。この事業にはプロ野球楽天ゴールデンイーグルスの岩隈投手から多大な協力をいただきました。

(3) パキスタン大洪水被災者救援事業

2010年7月下旬、パキスタン北部でモンスーンの猛烈な雨のためインダス川の上流地帯で洪水が発生しました。洪水は同川の中流から下流にかけて拡大し、パキスタン全土の3分の1が冠水、死者1,700人以上、被災者2,000万人以上、被災家屋は200万戸以上と報告されています。濁流により汚染された水が原因の下痢や伝染病も蔓延しました。

洪水の被災地には5年前のパキスタン地震の被災地も含まれています。国連ハビタットは、環境を回復し、住居を建設して人々の生活環境を整える活動をしています。被災者の雇用や現地での建設資材の購入などで、地域経済の活性化も目指しています。

日本ハビタット協会はこの事業を支援するために、8月から募金活動を開始し、現在も続けています。

(4) アフリカ障害児・孤児学校生活改善事業

アフリカのタンザニア北部、ビクトリア湖に面したブコバ町にムゲザ学校があり、545人の生徒が勉強しています。そのうちの多くが障害児とエイズ孤児で、学校に住んで教育を受けています。

この学校では、2009年に日本ハビタット協会の資金で、雨水貯蔵用大型タンク4基を建設、修復しました。

ムゲザ学校の通路はまったく舗装されていないため、雨のたびにぬかるみ、障害児が教室、食堂、寮などの間を移動することが困難です。水はけが悪く、すぐに水たまりができ、子ども達の保健衛生に悪影響が生じ、環境も悪化しています。

日本ハビタット協会が提案して、2011年1月に国連ハビタットとTAWLAT(タンザニアの婦人団体 Tanzania Women Land Trust)の間で舗装工事を実施するための協定を結び、ただちに工事に着手、順調に進んでいます。

この事業には、JICAから全事業費の約半額100万円の助成金を受けることができました。

(5) 国連ハビタット本部との協力協定締結

2010年5月1日に日本ハビタット協会と国連ハビタット本部の間で協力協定が締結され、当協会は国連ハビタットのパートナーであり、日本の民間社会に対して国連ハビタットの利益を代表することが明記されました。協力協定で確認された両者の強い協力の精神に基づいて(2)～(4)の事業が実施されました。

(6) 里山国際連携の創立メンバーに

2010年10月名古屋で開かれたCOP10で、当協会のマリ・クリスティーヌ副会長・国連ハビタット親善大使の尽力もあって、日本で成功をおさめた里山イニシアチブを世界的に拡大実施するための「里山国際連携」が採択されました。日本ハビタット協会はこの連携の創立メンバー(Initiating Member)の1員となりました。

(7) 国連ハビタット福岡本部支援事業

2011年2月、財団法人福岡県国際交流センターを通じ、国連ハビタットアジア太平洋本部の活動支援金を送金しました。

(8) 募金事業

① 東日本大震災被災者支援募金

3月13日から東日本大震災被災者支援募金を開始しました。短期間に非常に多くの方々から、そして外国からも寄付金をいただきました。

ハビタットフレンズ三島およびハビタットフレンズ・ユースの皆様は、学期休みと休日に街頭で募金をして、当協会に届けてくださり、ご尽力に深く感謝いたします。

ハビタットフレンズ・ハワイの皆様はハワイで積極的な募金活動を展開し、また、日本

の知人の方々にも呼び掛けて、多大な寄付金を集めてくださり、深く感謝いたします。当協会の名前とホームページの URL は、Japan Times の大震災関係寄付先リストに掲載されました。日本財団のニューヨーク事務所のホームページにも掲載されて、直ちに当協会のホームページにリンクして寄付ができるようになりました。

- ②羽田空港の国際線ターミナルが 2010 年 10 月 21 日に供用され、当協会の募金箱大型1基を 11 月 28 日に設置しました。中型募金箱を置いてくださる店、会社、レストランなども多く、2010 年度を通じて 14 個を新設しました。

2. 広報事業—活動の輪の拡大

(1) イベントなどへの参加

2010 年度に日本ハビタット協会が参加した主なイベントは次の通りです。

- ①GTF グリーンチャレンジのつどい 2010
- ②AIDS 文化フォーラム
エイズ孤児たちの生活環境改善プロジェクトへの支援を呼びかけ、支援活動の方法として、募金箱に寄せられた外貨コインの仕分けを体験。
- ③横浜国際フェスタ 2010
- ④グローバル・フェスタ JAPAN2010
- ⑤福岡空港フォト・コンテスト 2010
- ⑥ハビタットフレンズ中野による「なかの生涯学習大学」開講式での展示
- ⑦国際協力ボランティア体験・コイン仕分け
逗子の小学生を対象に外国コイン仕分けを通じて国際ボランティアの体験の機会を、芝商業高校でも同様の機会をつくりました。

(2) 企業による国際協力活動

2010 年度には企業による国際協力活動が活発に行われ、ご協力に感謝しております。主なものは次の通りです。

- ① アクセンチュア株式会社: コーポレート・シティズンシップへの積極的取り組みとして、社員の皆様で外貨コインの仕分けをしてくださいました。
- ② 三井物産株式会社: 夢溢れる未来のための社会や地域、環境への積極的貢献活動の一環として、旅行や出張をなさった社員の方々の使い残り外貨コインなどを仕分けしてご寄付くださいました。
- ③ 日本郵船株式会社: クルーズ船に設置した募金箱に集まった寄付金をご寄付いただきました。また、旅行や出張をなさった社員の方々の使い残り外貨コインなどを仕分けしてご寄付くださいました。

(3)国連ハビタット親善大使の活動・講演

マリ・クリスティーヌ国連親善大使・当協会副会長は 2010 年度にも広く活躍をしました。2010 年度を通じて各地で講演を依頼され、そのたびに資料を配って国連ハビタットに関する説明をしています。2010 年度中に合計 14 回の講演を行い、合計 3,450 人が参加、大きな広報効果があげられました。

2010 年 4 月には、国連ハビタット総本部の招待を受けて、世界都市フォーラム(リオ・デ・ジャネイロ)に出席し、急速に進む世界の都市化と都市における格差と貧困問題の解決に関する討議に参加しました。

(4)まちづくり通信の発行

2010 年 5 月に「まちづくり通信」Vol.17 を、11 月に Vol.18 を発行しました。発行部数はそれぞれ 1 万部で、会員、寄付を下された皆様、講演会・シンポジウム・イベント参加者などに広く配布しました。

(5)メディアによる活動紹介

日本ハビタット協会の広報活動の結果、国連ハビタットなどに関する記事は次の通り掲載されました。

- 2010 年 10 月号「西日本文化」にマリ・クリスティーヌ国連ハビタット親善大使による国連ハビタット職員の活躍に関する記事掲載
- 2011 年 1 月 20 日読売新聞朝刊 岩隈投手のアフリカエイズ孤児生活改善事業への寄付に関する記事掲載。関連記事は朝日新聞朝刊、サンケイスポーツ、スポーツ報知、スポーツニッポン、日刊スポーツ、東京新聞、デイリースポーツに掲載。(全て 1 月 20 日付)
- 2011 年 1 月 20 日発行「La qualite」に「ボランティアの原点とは」の題でマリ・クリスティーヌ国連ハビタット親善大使の対談記事掲載。

3. 協会の運営

(1) 認定NPO法人資格取得

かつてから望んでいた認定NPO法人資格の申請を行ったところ、2010 年 7 月 1 日からこの資格が認められました。その結果、当協会に寄付をしてくださる個人、法人に税制上の優遇措置が適用になりました。総数 4 万 2000 を超えるNPOのうち、この資格を持つのは 200 程度に過ぎず当協会の信用も一層高まることになりました。また認定NPO法人への東日本大震災関連寄付には一層の優遇が与えられます。

(2) ボランティア活動の強化

2010 年度の特徴は、ボランティアの皆様が特に積極的にご協力下さったことです。深く感謝を申し上げます。

- **ハビタットフレンズの活躍**

すでにご紹介したとおり、ハビタットフレンズ仙台、ハビタットフレンズ山形およびハビタットフレンズ・ハワイの皆様には格別のご尽力をいただきました。

ハビタットフレンズ・ユースの皆様は、コイン仕分け、イベント、街頭募金活動などでの協力を、ハビタットフレンズ三島の皆様は、展示、講演会、街頭募金活動などで協力してくださいました。

- **募金箱に集まったコインの回収**（成田空港、羽田空港、中部空港、関西空港、福岡空港、熊本空港、博多港国際ターミナル）羽田空港と関西空港では 2010 年度からボランティアの方々が回収をしてくれています。
- **月 2 回行われるボランティア・デイに参加してコインの仕分け、ニュース・レターの発送** 2010 年度に 22 回実施（毎回5~10 人参加）

(3)フルタイムスタッフの雇用

従来、当協会は時間給職員と役員のボランティア勤務で運営してまいりました。この体制のままでは今後の事業の成長発展に限界があるため、2011 年 4 月 1 日から従来時間給で勤務していた職員 1 名をフルタイム勤務に切り替えることにしました。プロジェクトとイベントを担当します。

監査報告書

認定NPO法人
日本ハビタット協会
会長 中村 徹 殿

2011年5月11日

認定NPO法人
日本ハビタット協会
監事

本 田 俊 雄 

私は、2011年5月11日に、認定NPO法人 日本ハビタット協会の決算などに対する監査を、法律事務所 あすか において実施しました。当協会の2010年度事業活動報告書、収支決算書および関連書類などを監査した結果、いずれも適切かつ妥当でありましたことを報告いたします。